

team hat Magazine

hat | 橋本総業ホールディングス 2024 VOL.7

第38回テニス日本リーグ決勝トーナメント 女子が2年ぶりに涙の戴冠!



決勝トーナメントに3チーム全員が集合した

2月16日から18日にわたり、東京体育館で実業団の団体戦「日本リーグ 決勝トーナメント」が開催された。女子2チーム、男子1チームが参戦し、女子の「橋本総業ホールディングス」が劣勢を跳ね返し、2年ぶり4度目の優勝を果たした。

女子決勝は、昨年同様に島津製作所との対決となったが、エースの坂詰姫野が金星を挙げ、ダブルスが接戦の末に勝利して涙の優勝奪還となった。「橋本総業」女子チームは準決勝で島津に敗れるも3位となり、新チーム初年度としては上々のスタート。男子チームは準決勝で優勝した三菱に僅差で敗れるものの、頼りになる新加入のリー・ツを軸にして3位を死守した。

橋本政昭会長は3チーム体制について、「試合に出てもおかしくない選手が出られないこれまでの状態を変えられ、5〜6人ずつの3チームによって、それぞれのチームにまとまりが出ました」と評価した。所属選手が全員プレーできる状態になったことで、士気は上がり、各チームの雰囲気も良くなってきている。早く勝負が決まったチームの選手は、他の



女子優勝の瞬間には社員や関係者、チームメンバーの一体感が生まれていた

チームの応援に回り、声を出して盛り上げていた。観客席からの声援もありチーム内だけでなく、Team HATの結束力が見て取れた。

橋本会長は今後のテニスへの取り組みに関して、より一層のグローバル化を念頭に、ネットワークを発展させていくことを考えていると言う。そして、次の日本リーグについては、「アベック優勝を目指します」と力強く語った。今回の日本リーグを通して、選手たちには様々なことを学んでいる。それをどう生かし、成長していくのか、来シーズンが楽しみだ。

敗北を糧にしてつかった優勝

根性の追い上げ、不調からの脱出、一心不乱に戦い到達した頂点！



1 優勝を決めてダブルスの小堀桃子、森崎可南子とベンチに入った小関みちかが抱き合って喜ぶ 2 シングルス1の坂詰姫野は、最高殊勲選手賞を受賞した 3 岡村恭香は接戦に持ち込み、追い上げムードを作ってパトンを渡した 4 観客席に勝利の挨拶をする選手たち

テニス世界ランクを見れば、決勝戦の相手である島津製作所の選手の方が上位に位置している。その事実をくつがえす結果を出せた要因の一つは、総監督である吉田友佳さんが言う「負けを生かしてきた」からだ。

エースの坂詰姫野は、この数カ月調子が悪く「自信が持てない状態」だった。セカンドステージでも決勝トーナメント準々決勝でも敗北を喫している。しかし、負けた試合を振り返り、準決勝ではリベンジに成功した。

決勝戦では、シングルス2の岡村恭香が敗れはしたものの、不屈の追い上げを見せたことで、熱い気持ちを受け取りコートに入った。選手や社員の応援に後押しされ、昨年の決勝で逆転負けした相手に対し、「自信を持ってプレー」でき、ストレートで勝利。値千金の勝ち星を挙げた坂詰は「チームのメンバーがいなかったら負けていたところもある。決勝でやっとシングルス1の役割を果たせました」と安堵した。

王座奪還を託されたダブルスの小堀桃子と森崎可南子は、セットを落とすものの、戦術を考えて動くことで追いつき、ファイナル10ポイントタイブレークへ持ち込む。しかし、3-7とリードされてしまう。厳しい状況だったが、本人たちは「途中からスコアがわからない状態だった」と言うほど集中していた。準決勝では「気持ちが引いて負けたので、『こ

のままいくぞ』と思い、気持ちが引くことはなかった」と、劣勢の状態にひるむことなく、優勝まで駆け抜けた。

吉田総監督は「岡村が熱いプレーで皆の気持ちを1つにしてくれ、坂詰は冷静なプレーができて、ダブルスはどちらが勝ってもおかしくありませんでした。プロとして1年を通じてやってきたことが、僅差の勝利につながりました」と、メンバーの日々の努力を称賛した。敗北から学び、勝機をつかんだ逆転優勝だった。

橋本総業ホールディングス・女子結果

2月16日 (金)	橋本総業 HD	2-1	ノアインドアステージ
S1	坂詰 姫野	4-6 6-2 8-10	松田 鈴子
S2	岡村 恭香	6-0 6-1	中塚 桃子
準々決勝	D 小堀 桃子/森崎 可南子	6-2 6-1	上田 らむ/塩谷 夏美

17日 (土)	橋本総業 HD	2-1	リコー
S1	坂詰 姫野	6-2 6-2	板谷 里音
S2	岡村 恭香	6-0 6-2	金井 綾香
準決勝	D 小堀 桃子/森崎 可南子	6-2 3-6 4-10	高橋 玲奈/谷井 涼香

18日 (日)	橋本総業 HD	2-1	島津製作所
S1	坂詰 姫野	6-3 6-2	本玉 真唯
S2	岡村 恭香	2-6 6-1 13-15	加治 遥
決勝	D 小堀 桃子/森崎 可南子	1-6 6-4 10-8	桑田 寛子/永田 杏里

決勝戦でライバルの島津製作所から勝利を挙げて歓喜の優勝を手にした



若手の成長を促せるチーム力

日本リーグ初参戦で3位という結果に「悔しい」と言えるチームに成長

優勝した「橋本総業HD」はAチーム、「橋本総業」はBチームと呼ばれている。Aチームの使命は優勝を狙っていくこと。ではBチームは？ 今季の新チームの長い旅は、その答えを見つけるものだったのかもしれない。

ベテランの瀬間詠里花、大前綾希子が牽引するチームには、経験の浅い若手もいる。しかし、リーグ戦を1位通過し、新チームとしては想定以上の結果を出してきた。初めて追われる立場となった若手には、決勝トーナメントの戦いは難しかっただろう。初戦が準決勝となり、優勝候補の島津製作所に敗退を喫した。ダブルスで出場した小林ほの香は、「最初は固くなって動けなかった」と言う。しかし、パートナーの大前に引っ張られて後半は力を出せるようになる。翌日の3位決定戦では、シングルス2として出場し自分のやるべきプレーを「やり切る」ことができ、チームも勝利を手に入れた。

ベテランと若手がいるチームを任された井上明里監督は、日本リーグを戦い抜き、「若手が育ちました。きっちり勝てるようになったのは素直にうれしいです」。今まではプレーだけで精一杯だった若手が、勝つためにはどういう準備が必要なのかをベテランから学び結果を出した。「(負けて) 悔しそうな顔をしていたので、今後のことを考えると良い経験」と技術に加えて気持ちの面での成長を喜んだ。Bチームには若手育成という使命が当てはまるようだ。

ただし、それだけではない。シングルス1として戦った35歳の瀬間は、「シングルスに出させてもらい課題が見つかりました」。大前も「経験が浅い人と組むと自分ができることを増やさないといけないので良い挑戦になります」と、意欲を燃やす。このチームは全員がプレーできることを楽しんでいる。与えられた舞台に感謝し、厳しく温かい先輩と、貪欲に吸収しようとする若手の相乗効果が生まれたチームだった。

橋本総業・女子結果

2月	橋本総業	0-3	島津製作所
17日	S1 瀬間 詠里花	6-3 3-6 9-11	本玉真唯
(土)	S2 松田 美咲	3-6 0-6	加治遥
準決勝	D 大前 綾希子/小林 ほの香	2-6 5-7	桑田寛子/永田杏里
18日	橋本総業	3-0	リコー
(日)	S1 瀬間詠里花	6-2 6-3	板谷 里音
3位	S2 小林ほの香	6-1 6-2	金井 綾香
決定戦	D 大前 綾希子/奥脇 莉音	7-6(3) 6-4	高橋玲奈/谷井涼香



シングルス1の瀬間詠里花はプレーと気迫でチームを引っ張った

中堅の松田美咲はシングルス2で奮闘

小林ほの香は単複に出場し戦い方を学んでいた

ベテランの大前綾希子はダブルスパートナーの奥脇莉音を元気にリード

仲間の試合中は、大声で後ろからサポートする仲の良いチーム

笑顔が多く常に明るい雰囲気、初出場で3位に



新加入リーの牽引で実力アップ!

実力者のリーがリーダーシップを発揮し、新加入が多いメンバーがまとまった



新メンバーが多かったにもかかわらず、良くまとまり3位入賞を果たした

上位チームのメンバーを冷静に見渡せば、橋本総業 HD 男子は選手層という点で、若干他チームの後塵を拝している。しかしメンバーは口々に「優勝を狙える」と言う。それほどチームのまとまりがいいからだろう。

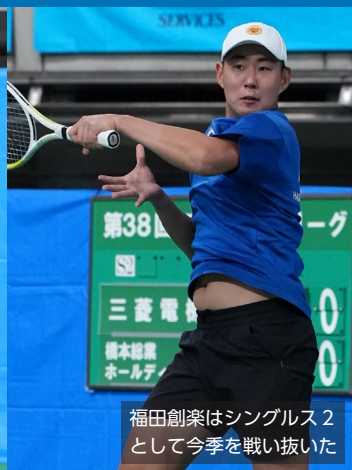
男子上位チームはシングルス1に海外の選手を置く傾向がある。彼らの実力は確かだが、チームに馴染めない可能性があることも否めない。そんな中、リー・ツは驚くほどチームに溶け込み、リーダーシップまで発揮した。毎日メンバーと夕食を共にし、ショッピングにも一緒に行っており、「メンバーは皆いい人で好きです。みんなでプッシュできているし良いチーム」と笑顔で話す。キャプテンの河内一真、吉村大生以外は、昨年加入したフレッシュなメンバーであることも、結束できる要因だったかもしれない。河内は「シングルのリーと(福田)創楽、ダブルスの(渡邊)聖太と、それぞれの良さが出せるオーダーが組める」と役目がはっきりしていることも良かったと言う。

優勝を目指して臨んだ決勝トーナメントの準決勝では、三菱電機に惜しくも敗れた。翌日は3位決定戦。試合前のミーティングでは「気持ちを強く持って、ベストを尽くそう」と、リーが皆を鼓舞する。きっちりと勝利を挙げた福田は「昨日は大事なところで取れなくて申し訳なかったので、今日は切り切れてほっとしています」とシングルス2の役目を果たした。リーも「三菱には僅差で負けたけれど、メンバーはベストを尽くしたし、今日は良いプレーもできて良かった」とやり切った様子だ。今回の3位という結果の立役者はリーであることに、誰も異論はないだろう。

杉山記一監督は、「三菱戦は残念でしたが、それがシビアな勝負。1ポイントの差は大きい。それをモノにできるチームにしていきたい」。個々のレベルアップと共に、戦力アップも考えていく方針だ。来季はどんなチームになるのだろうか。



リー・ツが結果に加えて、メンタル面でも皆をサポート



福田創楽はシングルス2として今季を戦い抜いた



ダブルス巧者の渡邊聖太とキャプテンとして皆をまとめた河内一真



若手の吉村大生は決勝トーナメントの舞台を経験した

橋本総業ホールディングス男子結果

2月	橋本総業 HD	2-1	エキスパートパワーシズオカ
16日	S1	リー・ツ	6-17-6(6) デニス・クドラ
(金)	S2	福田 創楽	7-6(6) 4-6 9-11 望月 勇希
準々決勝	D	河内 一真/渡邊 聖太	6-4 6-4 住澤 大輔/野口 政勝
17日	橋本総業 HD	0-3	三菱電機
(土)	S1	リー・ツ	7-6(5) 3-6 8-10 清水 悠太
準決勝	S2	福田 創楽	5-7 6-7(5) 高橋 悠介
	D	河内 一真/渡邊 聖太	6-7(2) 2-6 田中 優之介/丹下 将太
18日	橋本総業 HD	2-1	マイシン
(日)	S1	リー・ツ	6-1 6-2 許 育修
3位	S2	福田 創楽	6-2 6-1 高橋 勇人
決定戦	D	河内 一真/吉村 大生	4-6 6-3 7-10 川橋勇太/末岡大和



試合前のミーティングで士気を上げる